

## 2019 年度事業報告

2019 年 4 月 1 日から 2020 年 3 月 31 日まで

### 1. 定時会員総会に関する事項

2019 年 6 月 14 日、日本アクチュアリー会 大会議室にて会員総会を開催し、

- ・ 2018 年度 事業報告の件

を報告し、

- ・ 第 1 号議案 2018 年度 貸借対照表及び正味財産増減計算書並びに財産目録の承認の件
- ・ 第 2 号議案 理事及び監事の選任の件

を諮り、原案どおり承認された。

### 2. 会員の異動状況

本年度の会員の異動は、法人会員については入会 1 法人、個人会員については入会 295 名、退会 219 名があり、2020 年 3 月末の会員数は、下表のとおりとなった。

正 会 員	1,844 名
準 会 員	1,333
研 究 会 員	2,069
小 計	5,246
法 人 会 員	110 法人
合 計	5,356 名・法人

### 3. 事業報告

#### [A. 試験関係]

##### (A1) 資格試験の実施

2019 年 12 月 9 日、10 日及び 11 日の 3 日間、東京（TOC 五反田）及び大阪（天満研修センター）において実施し、2020 年 2 月 14 日に結果発表を行った。

第一次試験の総受験科目数は 3,714 科目、うち合格科目数は 858 科目であり、その結果、新たな基礎科目全科目合格者数は 109 名であった。

第 1 次試験 (基礎科目)	数学	生保数理	損保数理	年金数理	会計・経済・ 投資理論
受験者数 (人)	1,136	774	637	442	725
合格者数 (人)	272	248	103	75	160
合格率	23.9%	32.0%	16.2%	17.0%	22.1%

第二次試験の総受験科目数は 1,187 科目、うち合格科目数は 181 科目であり、その結果、(基礎科目も含めた) 新たな全科目合格者数は 90 名であった。

第 2 次試験 (専門科目)	生保 1	生保 2	損保 1	損保 2	年金 1	年金 2
受験者数 (人)	362	353	163	131	82	96
合格者数 (人)	49	64	20	22	13	13
合格率	13.5%	18.1%	12.3%	16.8%	15.9%	13.5%

(A2) CERA 試験の実施

2019 年 9 月 25 日に TKP 東京駅日本橋カンファレンスセンターにおいて実施し、2020 年 1 月 20 日に結果発表を行った。

受験者数は 54 名、うち合格者数は 7 名 (合格率 13.0%) であった。

[B. 教育・研修・研究発表関係]

(B1) アクチュアリー講座等の実施

アクチュアリー講座を、2019 年 5 月 17 日から 2019 年 10 月 8 日の期間で実施した。受講状況等は次のとおり。

	科目	受講者数
基礎講座 (12 科目)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 確率論</li> <li>・ 数学 (確率論演習)</li> <li>・ 生保数理</li> <li>・ 会計学</li> <li>・ 生命表</li> <li>・ 統計論</li> <li>・ 数学 (統計論演習)</li> <li>・ 損保数理</li> <li>・ 経済学</li> <li>・ モデリング</li> <li>・ 年金数理</li> <li>・ 投資理論</li> </ul>	150 名
特論講座 (7 科目)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 危険選択論</li> <li>・ 保険監督法</li> <li>・ ファイナンス数理</li> <li>・ 社会保険論</li> <li>・ 年金実務法規</li> <li>・ リスクマネジメント論</li> <li>・ 人口論</li> </ul>	32 名

アクチュアリー追加演習講座を、2019 年 9 月 24 日から 2019 年 11 月 29 日の期間で実施した。受講状況等は次のとおり。

	科目 (受講者数)
追加演習講座	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 生保数理演習 (30 名)</li> <li>・ 年金数理演習 (23 名)</li> <li>・ 損保数理演習 (30 名)</li> <li>・ モデリング演習 (17 名)</li> </ul>

ERM 関連の専門知識・技能を学ぶことを目的とした、アクチュアリー専門講座 (ERM) を新たに開講し、2019 年 7 月 20 日から 2019 年 8 月 29 日の期間で実施した。受講状況は次のとおり。

	科目	受講者数
専門講座 (ERM) (3 科目)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ファイナンス数理</li> <li>・ リスクマネジメント論</li> <li>・ ERM</li> </ul>	54 名

実習を通じ、アクチュアリーとしてデータサイエンス関連の専門知識・技能を習得することを目的とした、アクチュアリー専門講座（データサイエンス）を新たに開講し、2020年1月11日から2020年3月14日の期間で実施した。受講状況は次のとおり。

	内容	受講者数	
専門講座 (データサイエンス) (前編・後編)	<b>【前編】</b> ・Rの導入と簡単な回帰モデル ・線形回帰モデル ・線形判別分析 ・決定木 ・一般化線形モデル ・データを提示して問題分析	<b>【後編】</b> ・予測モデリングの基本手順 ・探索的データ解析(EDA) ・予測モデリング用のモデル例 ・モデルの選択・評価の方法 ・回帰問題での実践 ・分類問題での実践	47名

関西委員会アクチュアリー講座を、2019年8月から2019年10月の期間で実施した。実施科目と受講者数は、生保数理：2名、年金数理：1名であった。

(B2) 日本アクチュアリー会創立120周年記念年次大会の開催

明治32年(1899年)の創立から120周年となる節目において、例年2日間にわたり実施される年次大会を3日間に拡大し、以下の日程等で120周年記念の年次大会を開催した。

(日時)：2019年11月22日(金)、11月23日(土)、11月25日(月)

(場所)：11月22日、23日：経団連会館

11月25日：JPタワーホール&カンファレンス

なお、120周年を記念して、IAA会議を東京に招致し、120周年記念の年次大会の直前(11月18日～11月22日)に開催された。(国際関係(E2)参照。)

本大会1日目の中で、次の特別講演が行われた。

- ・「理念に基づく保険会社経営 — 伝統を超えて —」\*120周年記念特別講演  
河合 美宏 氏 (京都大学経営管理大学院 特命教授 (元IAIS事務局長))
- ・「『異次元緩和』の経験とMMTを含む最近の財政重視論台頭について」  
早川 英男 氏 (富士通総研 エグゼクティブ・フェロー (元日本銀行理事))
- ・「IFRS第17号 —アクチュアリーに期待する役割—」  
鶯地 隆継 氏 (有限責任監査法人トーマツ パートナー (元IASB理事))

大会2日目には、終日、英語のみで行われるセッション(Special Meeting)を企画・開催した。IAA会議参加者とのジョイントセッションとして、IAA東京会議参加者であったTan Suee Chieh氏(IFoA President-Elect)、Andrew Rallis氏(SOA President)をスピーカーに招き、特別講演が行われた他、3会場においてCGA(CERA Global Association)、IAAセクション(ASTIN&CAS)、国際関係委員会によるパラレルセッションが開催された。

大会3日目には、論文発表：15編、プレゼンテーション：9セッション、パネルディスカッション：6セッションが行われた。

(B3) IT 研究大会の開催

2020年1月16日、17日の2日間、大樹生命ホール（大手町野村ビル）において、IT 研究大会を開催した。

本大会の中で、次の特別講演が行われた。

- ・「情報通信技術は5年後こう変わる

～今後5年間に保険業界に影響を与える情報通信技術とは～

城田 真琴 氏（株式会社野村総合研究所 IT基盤技術戦略室 室長/上席研究員）

最新 IT 技術調査・研究チームによる「Society5.0 の世界により変化していく保険会社の役割」の発表及び IT 研究会第1グループから第6グループによる活動報告が行われた。

(B4) 例会の開催

2019年度は合計6回の例会を開催した。詳細は次のとおり。

第1回 (2019.6.13) [その他]	保険：顧客エンゲージメント、オンライン、そして引受査定の変容	サラ・ゴールドバーク 氏 (Gen Re Life / Health)
第2回 (2019.7.17) [IT]	データサイエンスの成功事例	リチャード・シュウ 氏 (RGA/ヴァイス・プレジデント&アクチュアリー)
第3回※ (2019.9.30) [年金・退給制度]	2019（令和元）年公的年金財政検証について	山内 孝一郎 氏 (厚生労働省年金局 数理課長)
第4回 (2019.10.23) [医療]	医療分野でのAIの活用ー生命保険業界への影響	Andreas Armuss 氏 (ミュンヘン再保険 シンガポール支店/チーフメディカルディレクター)
第5回 (2019.12.16) [プロフェッショナリズム]	※プロフェッショナリズム研修（継続教育）と共同開催 (B10)①参照)	
第6回 (2020.2.7) [その他]	外国債券投資の理論と実践	井上 健太 博士（経済学） (三菱UFJモルガン・スタンレー証券 シニア債権ストラテジスト/シニア・マーケットエコノミスト)

※第3回は、日本年金数理人会との共催（日本年金数理人会「第76回研修会」）。

※第7回（3/4）および第8回（3/30）の開催を予定していたが、新型コロナウイルス等の感染症拡大に関する足元の状況を踏まえ、開催中止とした。

(B5) 関西委員会例会の開催

2019年度は合計3回の関西委員会例会を開催した。詳細は次のとおり。

第1回 (2019.9.13) [その他]	AIと法	宍戸 常寿 先生 (東京大学大学院 法学政治学研究科 教授)
-----------------------------	------	-----------------------------------

第2回 (2019. 12. 23) [その他]	アクチュアリーのためのデータサイエンス入門	笛田 薫 氏 (滋賀大学 データサイエンス学部 教授)
第3回 (2020. 1. 31) [年金・税制]	アクチュアリーのための年金税制の基礎	谷内 陽一 氏 (第一生命保険株式会社)

※第4回(3/13)の開催を予定していたが、新型コロナウイルス等の感染症拡大に関する足元の状況を踏まえ、開催中止とした。

(B6) ムーンライトセミナーの開催

2019年11月から2020年3月にかけて次の4つのテーマで開催することとした。

IFRS第17号の動向と論点	土井 和行 君 朝田 朋憲 君 (共にウイリス・タワーズワトソン)
一緒に学ぼうアクチュアリーのためのデータビジュアライゼーション入門	岩崎 宏介 君 (ミリマン)
一般化線形モデル入門	内藤 和晃 君
データサイエンスの実践 ～機械学習を中心に～	セミナー部会

※2月27日以降のムーンライトセミナーについては、新型コロナウイルス等の感染症拡大に関する足元の状況を踏まえ、開催中止とした。

(B7) 関西セミナーの開催

2020年2月12日に次のテーマで開催した。

<ul style="list-style-type: none"> <li>・ CAT ボンドのプレミアム算定に関する一考察</li> <li>・ ポートフォリオ理論を用いたスマートベータの構築と日本株式市場におけるパフォーマンス分析</li> <li>・ カナダとアメリカにおける遺伝子検査情報の生命保険に対する影響の比較と再現</li> <li>・ 要支援・要介護認定に影響を及ぼす危険因子の推定と危険因子が要介護発生率へ与える影響</li> <li>・ 世代重複モデルを用いた医療保険の導入についての動学的マクロ分析</li> </ul> (修士論文のテーマ)	京都大学大学院理学研究科 保険数学ゼミ学生
--	--------------------------

(B8) e-ラーニングの充実

e-ラーニングに次のコンテンツを公開した。

- ・ IFRS17 Reinsurance Contracts held
- ・ 執筆の際に留意すべき知的財産権とクリアする方法 ※動画配信
- ・ 2017 ERM Webinar
- ・ 2018 年度年次大会報告集「アクチュアリーとモデル選択 (Accurate GLM)
- ・ 2018 年度年次大会報告集「人事制度設計と年金アクチュアリーの関わり」
- ・ 2017 年度 Open Discussion Forum
- ・ 2018 年度 Open Discussion Forum (Risk Management)
- ・ 2018 年度 Open Discussion Forum (Product and Asian Insurance Market)

- ・ 2018 年度 Open Discussion Forum (Financial reporting)
- ・ IAA リスクブック第 12 章 (一資本一規制上の管理ツール)
- ・ IAA リスクブック第 17 章 (リスクと不確実性)

(B9) actuvie の活用

アクチュアリー関連の国際会議の発表動画をオンライン配信する国際的なプラットフォームである「actuvie」のサービスを本会会員への新たな教育手段として活用開始した。

(B10) プロフェッショナルリズム研修の実施

- ① プロフェッショナルリズム研修(継続教育)を、2019 年 12 月 16 日に次の内容で実施した。
  - ・ アクチュアリーとプロフェッショナルリズム概論 片寄 郁夫 君 (りそな銀行)
  - ・ 医療プロフェッショナルリズム教育 宮田 靖志 氏  
(愛知医科大学 医学部 教授)
- ② プロフェッショナルリズム研修(初期教育)を、2020 年 2 月 26 日に次の内容で実施した。この研修は正会員資格の認定要件である。
  - ・ アクチュアリーとプロフェッショナルリズム概論 片寄 郁夫 君 (りそな銀行)
  - ・ IAA 教育シラバスとプロフェッショナルリズム 村田 富生 君 (大樹生命)
  - ・ アクチュアリーと行動規範について 奈良 伸一 君 (明治安田生命)
  - ・ 生保のプロフェッショナルリズム 渡部 仁 君 (日本生命)
  - ・ 損保のプロフェッショナルリズム 金子 洋巳 君  
(損保ジャパン日本興亜)
  - ・ 年金のプロフェッショナルリズム 堀田 晃裕 君  
(有限責任監査法人トーマツ)

※新型コロナウイルス等の感染症拡大に関する足元の状況を踏まえ、参加者を「2018 年度資格試験または 2019 年度資格試験をもって全科目に合格した準会員」に限定し、規模を縮小した上で開催した。

- ③ 少額短期保険協会において、金融庁と本会による少額短期保険の保険計理人向けの研修が 2020 年 2 月 6 日に実施された。本会としては、プロフェッショナルリズム研修の一環として、金子 洋巳 君 (理事・プロフェッショナルリズム教育部会委員)が講師を担当した。

(B11) CERA に関する研修等の実施

2019 年 11 月 1 日、2 日の 2 日間、CERA 試験の受験者を対象に、ERM に関する日本特有の状況や ERM のケーススタディーについて講義やグループ学習を実施した。この研修は CERA 資格の認定要件であり、受講修了者は 21 名であった。

(B12) 研究集会の実施

2019 年 10 月 26 日に、テーマに沿った未発表の研究を題材に会員と研究者・大学院生などが討論し論文の深掘を行うことを目的とし、また、発表者の先端的な研究を議論することで、参加者全員が新たな研究テーマを発見することを期待する場としての 2019 年度第 1 回研究集会を、早稲田大学大学院会計学研究科・産業経営研究所及び日本保険・年金リスク学会 (JARIP) と共催した。

※2019 年度第 2 回研究集会 (3/21) の開催を予定していたが、新型コロナウイルス等の感染症拡大に関する足元の状況を踏まえ、開催中止とした。

## 〔C. 調査・研究活動〕

### (C1) 標準死亡率諮問委員会の開催

第25回標準死亡率諮問委員会が、2019年10月30日に開催され、「生保標準生命表2018(死亡保険用)」、「第三分野標準生命表2018」及び「生保標準生命表2007(年金開始後用)」について、2020年度に継続適用することが了承された。

### (C2) 実務基準の整備

- ① 「退職給付会計に関する数理実務基準・数理実務ガイダンス」について、IAS19の改定等を反映するため、2019年5月に改定を行った。
- ② 「IAS19に関する数理実務基準」について、IAAによるISAP3の改定等を反映するため、2019年5月に改定を行った。
- ③ 「退職給付会計に関する数理実務ガイダンス」について、日本年金数理人会における「厚生年金基金実務基準」の取扱いを踏まえ、本ガイダンスにおいても厚生年金基金実務基準を参照しないこととする改正草案を公表した。

### (C3) 保険商品数理に関する検討

生保商品特別検討WGにおいて、2020年3月に、保険商品数理に関連するテーマについて金融庁とディスカッションを実施する前提で準備を進めたが、新型コロナウイルス等の感染症拡大に関する足元の状況を踏まえ、開催中止とした。

### (C4) 国際会計基準・保険監督の国際基準への対応

国際会計基準及び保険監督の国際基準について、本会は、IAA(国際アクチュアリー会)の委員会活動への積極的な参画を通じて対応した。IAAは、アクチュアリー専門職団体として、IASB(国際会計基準審議会)及びIAIS(保険監督者国際機構)において行われている精力的な検討に関して、それぞれの機関会員として委託研究等の活動を行っている。

### (C5) 「経済価値ベースのソルベンシー規制等に関する有識者会議」のオブザーバーの派遣

金融庁からの依頼を受け、「経済価値ベースのソルベンシー規制等に関する有識者会議」にオブザーバーとして、宮本 淳 君(第一生命)を派遣することとした。また、同会議において、本会より「経済価値ベースの保険負債の適切性確保」について発表した。

### (C6) IAA教育シラバス改訂への対応

2021年より改訂後IAA教育シラバスが発効となることを受け、将来の本会の試験・教育制度について、試験・教育企画委員会及び傘下のPT等において対応を検討している。

### (C7) データサイエンスに関する調査・研究

2019年9月、データサイエンスが会員にとって利用しやすくなるよう、データサイエンス関連の基礎的な事項を調査・研究し、成果を会員に広く伝えることを目的として、「データサイエンス関連基礎調査WG」を新設した。

### (C8) 社会の負託に応える専門職のあり方の今日の見直し

2019年9月、専門職制度を構成する行動規範、実務基準について、今日的观点も踏まえて調査・検討を実施し、企画委員会に対して検討結果の報告及び改善提案を行うため、「専門職制度検討WG」を新設した。

(C9) 委員会等の活動

各委員会・部会・研究会・ワーキンググループ・プロジェクトチームにおいては、年度始に定めた目的・ミッションに基づく調査・研究などの活動を行い、その活動状況等を本会ホームページに掲載するとともに、調査・研究の成果としてまとめたものについては、会員専用のホームページ・会報別冊等を通じて公表した。

[D. 意見表明]

(D1) IAA のカウンシルでの投票（電子投票を含む）

- ① 2019 年 4 月、戦略目標の改定／メンバーシップ委員会の TOR の改定に関して、賛成として投票を行った。
- ② 2019 年 5 月、IAA ワシントン会議でのカウンシル・ミーティングにおいて、すべての議案について、賛成として投票を行った。
- ③ 2019 年 8 月、準会員組織の承認に関して、賛成として投票を行った。
- ④ 2019 年 11 月、IAA 東京会議でのカウンシル・ミーティングにおいて、すべての議案について、賛成として投票を行った。
- ⑤ 2020 年 3 月、規則等（規則、内部規則、指名委員会プロトコル）の改定、2021 年 2Q IAA 会議の開催地、第 32 回 IGA2022 開催に関する規則に関して、すべて賛成として投票を行った。

(D2) IAA による IAA/IAN100 の公開草案に対し、関係委員会にて検討を行い、2019 年 4 月、意見を提出した。

(D3) IAA の気候変動に関する活動方針書（Statement of Intent, SOI）の案に対し、保険監督部会及び関係委員会にて検討を行い、2019 年 12 月、賛成として意見を提出した。

(D4) IAA 指名委員会（Nominating Committee/NC）の委員長の選任に関する内部規則改定について、2019 年 12 月、賛成として意見を提出した。

[E. 国際関係]

(E1) IAA 活動

IAA に委員を派遣し、委員会活動に積極的に参画しており、そのうち委員会に関しては、村田 富生 君が執行委員会に、河野 年洋 君がアクチュアリー実務基準委員会に、中村 吉男 君が保険会計委員会に副委員長として、山田 龍太郎 君が損保委員会に副委員長として、それぞれ参画している。なお、吉村 雅明 君は IAA 前会長に就任していた。

(E2) IAA 東京会議

2019 年 11 月 18 日～11 月 22 日の期間で、当会の 120 周年を記念して招致した IAA 東京会議が開催された。本会議の開催にあわせ、以下の関連行事を企画・開催した。

- ① 11 月 17 日、日本特有の事例である、長寿化をテーマとしたジョイントセミナー、「Longevity Inside and Outside Japan」を IAA の Population Issues Working Group (PIWG)、



Mortality Working Group (MWG) と共催した。以下のスピーカーによる、3つのプレゼンテーションを企画し、IAA 会議に参加していた海外アクチュアリーを含む、97名の参加者を集めた。

- ・ Social Security in Japan- Current Status and Issues from a Holistic Perspective  
伊原 和人 氏 (厚生労働省 政策統括官 (総合政策担当))
- ・ Efforts to Maintain the Sustainability and Adequacy of Social Security Pensions  
坂本 純一 氏 (JS アクチュアリー事務所)
- ・ Insurance Industry Efforts on Longevity Issues - Arrival of 100-year lifespan  
西村 泰介 氏 (第一生命)、 山浦 貴史 氏 (損害保険ジャパン日本興亜)

② 11月21日、「Member Forum」において、以下のスピーカーによるプレゼンテーションを企画した。

- ・ Japanese Longevity from Population Projection Perspective: Background, Prospects and Impacts  
石井 太 氏 (慶應大学教授)
- ・ What A 100-year Life Means for Japan' s youth  
玉木 伸介 氏 (大妻女子大学短期大学部教授)

③ 11月20日、日本アクチュアリー会主催 (日本年金数理人会協力) によるオフィシャルディナーが明治記念館で行われ、約300名のIAA 会議参加者等が参加した。

(E3) 第47回東アジア・アクチュアリー講座 (ASEA) の実施

2019年9月10日から13日までの4日間にわたり、東アジアを中心とする10地域から32名の参加を得て、アクチュアリーが関わる日本の諸制度の状況等について講義を実施した。

(E4) 国際会議等への派遣等

次のとおり国際会議等に会員を派遣した。(※2019年IAA 秋季会議は、東京 (E2))

- ① 2019年4月2日~4月5日 PBSS コロキアム (於: 南アフリカ・ケープタウン)  
清水 信広 君
- ② 2019年5月14日~5月19日 IAA 会議 (於: ワシントン)  
庄子 浩 君、村田 富生 君、井出 満徳 君、吉村 雅明 君、清水 信広 君、重原 正明 君、  
中村 吉男 君、山本 貴史 君、山崎 浩 君、山田 龍太郎 君、藤澤 陽介 君、関根 賢二 君、  
大内 稔 君
- ③ 2019年5月21日~5月24日 AFIR/ERM コロキアム (於: イタリア・フィレンツェ)  
山下 実若 君、横山 大河 君
- ④ 2019年7月28日~7月31日 APRIA (於: 韓国)  
藤澤 陽介 君、矢島 桐人 君
- ⑤ 2019年10月21日~10月24日 AAC (於: シンガポール)  
大内 稔 君
- ⑥ 2020年2月24日~25日 IAA Strategic Planning Committee (於: ドイツ・フランクフルト)  
吉村 雅明 君 ※オブザーバーとして参加

(E5) ミャンマーの金融規制局への研修の実施

JICA（国際協力機構）より、ミャンマーの金融規制局に対する日本の保険に関する研修プログラムの一環として、講義依頼を受け、12月9日に、日本アクチュアリー会の組織体系や活動内容について研修を実施した。

[F. 評議員会]

(F1) 2020年2月27日に第31回評議員会を書面（※）にて開催し、2019年度事業報告、2020年度事業計画（案）について審議した。

※当初、対面会議の開催を予定していたが、新型コロナウイルス等の感染症拡大に関する足元の状況を踏まえ、書面による開催に変更した。

[G. 学術活動]

(G1) 京都大学より保険数理及び年金数理の講師派遣の依頼があり、浅野 淳 君（住友生命）、齊藤 弘行 君（住友生命）、鈴木 剛 君（住友生命）、片寄 郁夫 君（りそな銀行）、徳田 裕也 君（大同生命）、豊留 健 君（日本生命）、恒川 啓之 君（日本生命）及び南 嘉博 君（日本生命）を派遣した。

(G2) 大阪大学より保険数理の講師派遣の依頼があり、佐々田 明彦 君（住友生命）、武村 昌紀 君（大同生命）及び恒川 啓之 君（日本生命）を派遣した。

(G3) 神戸大学より保険数理の講師派遣の依頼があり、松本 浩司 君（住友生命）を派遣した。

(G4) 早稲田大学より生保数理及び年金数理の講師派遣の依頼があり、安達 良喜 君（明治安田生命）、田中 浩一 君（明治安田生命）、浜田 淳一 君（明治安田生命）、荒井 昭 君（明治安田生命）、関口 健太郎 君（エーオンベンフィールドジャパン）、藤澤 陽介 君（スイス再保険）を派遣した。

(G5) 2019年12月、統計数理研究所リスク解析戦略研究センター主催の金融シンポジウムにおける、「超高齢社会におけるアクチュアリアル・モデリング」のセッションで、本会から3名が論文発表を行った。

(G6) 2019年11月、京都大学大学院理学研究科数学教室の連続講義について、派遣講師がその運営に参画する形で協賛することとした。

[H. 表彰関係]

(H1) 2018年度資格試験理事長賞及び成績優秀者

① 理事長賞

尾谷 和則 君（日本生命）、富田 昌 君（明治安田生命）、中平 優佑 君（日本生命）に理事長賞を授与した。

② 科目別成績優秀者

数学1名、生保数理1名、損保数理1名、年金数理1名、会計・経済・投資理論1名、

生保2 1名の成績優秀者を表彰した。

(H2) 優秀論文の表彰

- ① 2019年11月22日、年次大会において、次の優秀論文を表彰した。

「解約強度がステップ関数型の資産価格依存性を持つ場合の変額年金保険の最低保証に係る責任準備金評価式」

塚本 昌也 君（第一生命）

- ② 2020年1月16日、IT研究大会において、次のIT関係優秀論文を表彰した。

「保険業界におけるビッグデータ活用に関する考察」

（IT研究会第3グループ）

「ブロックチェーン技術の保険事務・保険商品への適用可能性」

（IT研究会第6グループ）

[I. 広報・出版活動]

(I1) 広報活動

- ① 2020年1月25日、学生を主な対象としたアクチュアリーセミナーを、東京及び大阪において実施した。参加者は、東京48名、大阪24名であった。
- ② 2019年7月2日、沖縄県南風原（はえばる）町教育委員会からの依頼を受け、同町立南星中学校が取り組んでいる中学2年生約40名の進路学習において、アクチュアリーに関する職業紹介の講話を行った。
- ③ 2020年3月19日に厚生労働省が開設した職業情報提供サイト（日本版O-NET）におけるアクチュアリーの職業紹介動画に関して、当会は動画撮影に協力した。

(I2) 情報提供機能の充実

次のとおり本会ホームページの改定を行った。

- ① 従来の「アクチュアリー合格者座談会」の対象を合格者以外に拡大した、「アクチュアリー座談会」を実施し、ホームページに公開した。
- ② 120周年記念の年次大会専用ページを例年より前倒しで作成し、公開した。
- ③ 「合格者の声」について、リニューアル（紹介メンバーの入替え）を行った。

(I3) 関連協会の事業への協力活動

- ① 公益財団法人 日本数学検定協会が主催する公益目的事業「数学甲子園2019」（第12回全国数学選手権大会）の本選に協賛した。
- ② 公益財団法人 数学オリンピック財団が主催する公益目的事業「IMO2023 日本大会」等への協賛を開始した。

(I4) 会報等の刊行

① 会報

第72号	・（続）古典的アクチュアリー数学史の話題より ・ 確定拠出年金の改善について～米国の医療貯蓄口座を参考に～ ・ DB年金のオプション的性質に関する一考察 ・ IFRS第17号保険契約における投資要素について～一般モデルにおける数
------	---

	<p>値例と実務面への影響</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ランダム効用理論を活用した生命保険会社の商品価格戦略について</li> <li>・確率微分方程式を用いた死亡率モデルに関する考察</li> <li>・高齢の死亡率モデルとその比較評価について</li> <li>・保険負債のオプションと保証の評価について</li> <li>・損害率の分散の推定方法について</li> <li>・解約強度がステップ関数型の資産価格依存性を持つ場合の変額年金保険の最低保証に係る責任準備金評価式</li> <li>・メリット保険料率性のマルコフ連鎖モデル：安定分布と収束の速さについて</li> </ul>
--	---

## ②会報別冊

第 285 号	<p>&lt;第 8 回アクチュアリー会海外研修報告&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生保・年金組報告</li> <li>・損保組報告</li> <li>・SOA プレゼン資料</li> <li>・年金班プレゼン資料</li> <li>・CAS プレゼン資料</li> <li>・研修後アンケート</li> </ul>
第 286 号	<p>&lt;第 59 回 IT 研究大会報告&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・特別講演「情報通信技術は 5 年後こう変わる～今後 5 年間に保険業界に影響を与える情報通信技術とは～」 (株式会社野村総合研究所 IT 基盤技術戦略室 室長/上席研究員 城田真琴)</li> <li>・スマートデバイス、IoT デバイスを活用した金融・保険サービスの研究</li> <li>・保険業界でのアジャイル開発適用について</li> <li>・保険会社のシステムにおける最適な UI / UX に関する研究</li> <li>・保険業界における S o E、S o R の在り方について</li> <li>・保険業界のサプライチェーンにおけるサイバーセキュリティ対策とその課題</li> <li>・保険業界におけるあらたな決済手段の活用について</li> </ul>
第 287 号	<p>&lt;A PUBLIC POLICY PRACTICE NOTE モデルリスク管理 &gt;</p> <p>モデルリスク管理に関するプラクティスノート (Developed by the Model Risk Management Work Group of the ERM/ORSA Committee of the American Academy of Actuaries) (国際関係委員会 翻訳)</p>

## ③アクチュアリージャーナル

第 107 号	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2018 年度 第 8 回例会報告</li> <li>・2018 年度 第 10 回例会報告</li> <li>・ASTIN Bulletin Abstracts (ASTIN 関連研究会翻訳)</li> <li>・2018 年度 論文研究活動報告 (AFIR 関連研究会)</li> <li>・2018 年度 関西委員会分科会活動報告</li> <li>・2018 年度 ムーンライトセミナー報告</li> </ul>
---------	--

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・データサイエンスへの取り組みについて（予備的報告書）</li> <li>・2018年度 新CERA資格者</li> <li>・2018年度 継続教育制度履修目標達成者</li> <li>・2018年度 資格試験合格者発表</li> <li>・アクチュアリーリレートーク（連載第8回）</li> </ul>
第108号	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日本アクチュアリー会創立120周年記念年次大会の開催について（120周年記念事業実行特別委員会・大会委員会・国際関係委員会・日本アクチュアリー会事務局）</li> <li>・事務局からのお知らせ・actuviev</li> <li>・2018年度 第11回例会報告</li> <li>・2019年度 第1回例会報告</li> <li>・アクチュアリーに関する職業紹介について（広報委員会報告）</li> <li>・2018年度 継続教育CPD単位履修状況</li> <li>・2019年度 委員会・部会・研究会・ワーキンググループ・プロジェクトチーム名簿</li> <li>・委員会活動紹介（広報委員会）</li> <li>・書評 Leases For Lives（著）David R. Bellhouse（明治安田生命/田中 浩一）</li> <li>・アクチュアリーリレートーク（連載第9回）</li> </ul>
第109号	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2019年度 第2回例会報告</li> <li>・2019年度 第3回例会報告</li> <li>・第47回 ASEA開催（ASEA部会・事務局報告）</li> <li>・数学甲子園2019について（公報委員会報告）</li> <li>・委員会活動紹介（国際関係委員会/投資理論委員会）</li> <li>・アクチュアリーリレートーク（連載第10回）</li> </ul>
第110号	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日本アクチュアリー会創立120周年記念年次大会の実施報告（120周年記念事業実行特別委員会・大会委員会・国際関係委員会・日本アクチュアリー会事務局）</li> <li>・データサイエンス関連基礎調査WGの新設 ～アクチュアリーのためのデータサイエンス技術の普及を目指して～</li> <li>・予測モデリングにおける誤差評価に関する研究報告（データサイエンス関連基礎調査WG）</li> <li>・2019年度 第4回例会報告</li> <li>・CERA研修講演報告</li> <li>・2019年度アクチュアリーセミナー報告</li> <li>・アクチュアリーリレートーク（連載第11回）</li> </ul>
特別号 ＜リスクと保 険第16号＞	<ul style="list-style-type: none"> <li>・講演 経済価値ベースの資本規制の導入をめぐる課題－産官学の交流の場で考える－</li> <li>・論文 テンソル解析を用いた死因別将来死亡率の同時推定</li> </ul>

#### ④2019年度資格試験問題集

##### (15) 広報誌の改訂

データサイエンスに関する記載や、ICA2026の開催決定などの直近の情報を取り入れ、イラスト等を全面的に刷新した。